

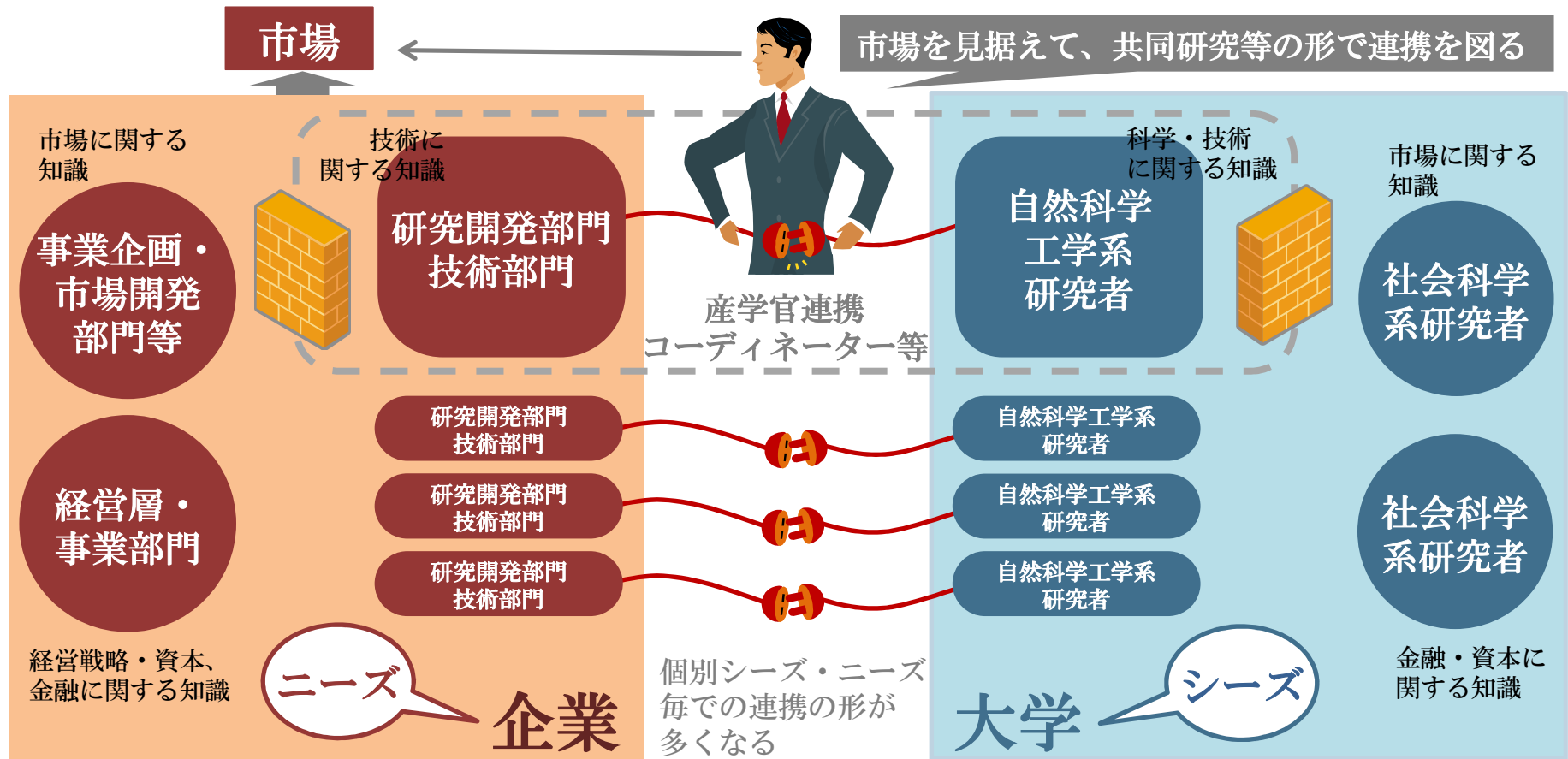
大学発イノベーションのための 対話の促進について

COI STREAM

大学等シーズ・ニーズ創出強化支援事業

科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課

従来の産学連携のイメージ図



結果として、共同研究は小粒なものに
 1件あたり100万円未満 約50%
 期間1年以下 約70%

大学の役割

～教育、研究、そして成果提供は大学にとって3本柱～

<例えば、関係法を見てみると。。。>

●**学校教育法**（昭和二十二年三月三十一日法律第二十六号）

第八十三条第2項 大学は、その目的を実現するための教育研究を行い、**その成果を広く社会に提供**することにより、社会の発展に寄与するものとする。

●**知的財産基本法**（平成十四年十二月四日法律第百二十二号）

（大学等の責務等）

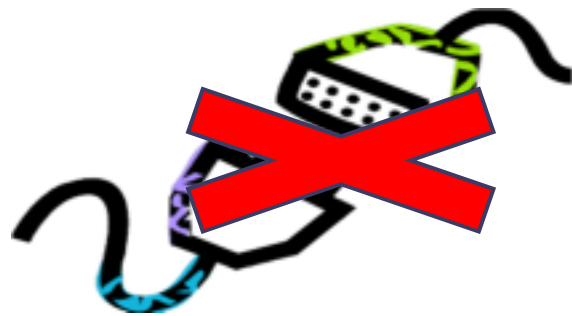
第七条 大学等は、その活動が社会全体における知的財産の創造に資するものであることにかんがみ、**人材の育成並びに研究及びその成果の普及に自主的かつ積極的に努める**ものとする。

●**教育基本法**（平成十八年十二月二十二日法律第百二十号）

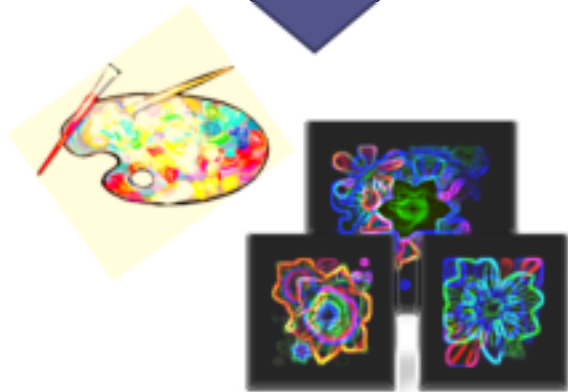
（大学）

第七条 大学は、学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、**これらの成果を広く社会に提供**することにより、社会の発展に寄与するものとする。

成果の社会への提供のあり方



個々の研究から特許をとってライセンスする単純なモデルではなく、



未来デザイン

大学等がどのような形で社会貢献するかをデザインすべきではないか。



デザイン思考による対話型 ワークショップ

- ・ 次の社会をどうデザインするのか？
- ・ 大学は社会に対してどのように貢献するのか？
- ・ 単なる発明から大学発のイノベーションにどう繋げるのか？



対話型ワークショップといっても... どのように実施すればよいのか？

- 参加メンバーはどのような方がよいのか？
- 参加者は目的意識をどのように共有したら良いのか？
- どのような場所で行うのがよいのか？
- 議論に時間はどれくらいかければよいのか？
- 事前にどのような準備をすればよいのか？
- 進行役はどのような方がよいのか？
- 進行役はどのような点に注意するのか？
- 議論が止まったときはどうするのか？
- どのように意思形成を図るのか？
- 出口をどのように求めるのか？
- 研究開発のパートナーをどのようにして見つけるのか？
- 参加者相互のモチベーションをどのように上げるのか？

科学技術・学術審議会
産業連携・地域支援部会
イノベーション対話促進作業部会での議論

【目的】

多様な参加者の対話を促進し、大学発のイノベーションを創出する確率を高める方法論を模索・検討する。

具体的検討事項

具体的検討事項

【発散プロセス】

従来にない斬新な発想を可能な限り数多く得ることを目的とした議論の方法

【課題解決プロセス】

理想の社会像をデザインすることにより、その実現に必要な技術を想定するための議論の方法

【収束プロセス】

「発散プロセス」により得られた斬新な発想について、具体的な技術の研究開発に当該議論を収束させるための方法

【参加者の効用を高める方法】

各プロセスに継続的コミットメントが得られるよう、参加者の効用を高める方法

プロセスの実行の確保

大学等で【プロセス】の実行を確保するための具体的な手法（ツール）に必要な要素を抽出。



【ツールに必要な要素の例】

- 課題設定（ステークホルダーの特定・検討チームの組成・議論の材料）
- 参加者の選定方法
- ワークプラン（予算・会場・期間）
- 議論の進め方・ファシリテーターの役割
- 意見抽出のための軸となる事項

革新的イノベーション創出プログラム COI STREAMのスケジュール(予定)

平成25年4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 平成26年4月

アイデア募集～拠点イメージ決定 (今回)

COI拠点募集～拠点の決定

